

# 2025年3月期 第2四半期決算説明資料

## — Agenda —

説明内容	説明者	予定時間
<ul style="list-style-type: none"><li>2025年3月期 第2四半期決算報告</li><li>持続的な成長の実現に向けた取り組み</li></ul>	代表取締役社長 木村 隆利	30分
<ul style="list-style-type: none"><li>質疑応答</li></ul>	社長、各事業統括 財務・経営企画担当役員	30分

- ↑ 前年同期比で増収・増益。予想に対しては、ほぼ想定どおりの進捗。  
 ↓ 円安効果による部分が大きく、数量ベースではチェーン事業、  
 モーションコントロール事業が苦戦。

(単位：百万円)

	2023年度 上期実績	2024年度		増減			
		期初予想	上期実績	前年同期比	増減率 (%)	期初予想比	増減率 (%)
売上高	128,760	136,000	<b>136,360</b>	+ 7,599	+ 5.9%	+ 360	+ 0.3%
営業利益	8,622	9,400	<b>9,459</b>	+ 837	+ 9.7%	+ 59	+ 0.6%
営業利益率	6.7%	6.9%	<b>6.9%</b>				
経常利益	10,364	10,000	<b>11,225</b>	+ 861	+ 8.3%	+ 1,225	+ 12.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	7,300	9,000	<b>10,014</b>	+ 2,713	+ 37.2%	+ 1,014	+ 11.3%
換算レート (USD)	141.06	145.00	<b>152.77</b>				
(EUR)	153.46	155.00	<b>166.06</b>				
(RMB)	19.45	20.32	<b>21.06</b>				

- ↑ チェーン事業は前年同期比で増収減益も、予想比では増収増益。  
マテハン事業も損失計上ながら、前年同期比では大幅な改善。
- ↓ モーションコントロール事業は、主要顧客の業界動向により回復遅延。

(単位：百万円)

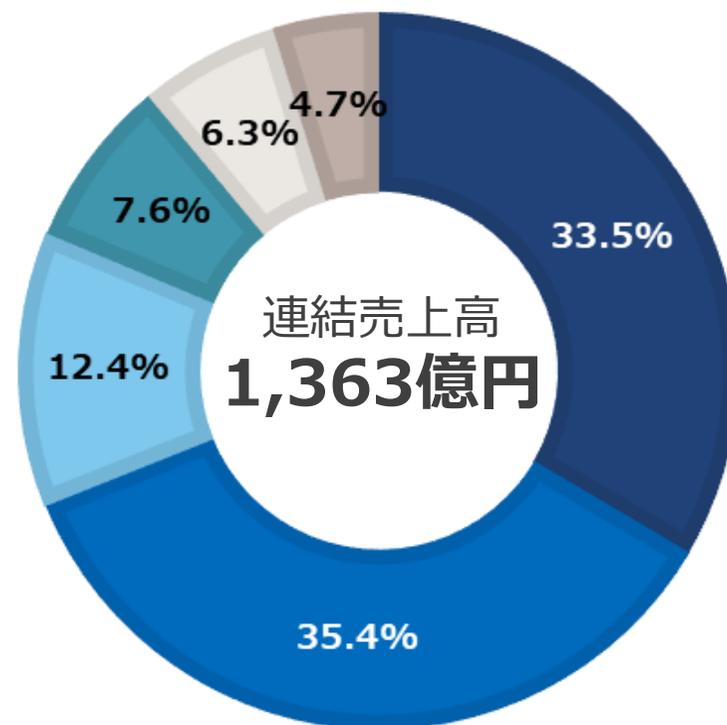
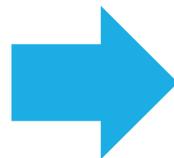
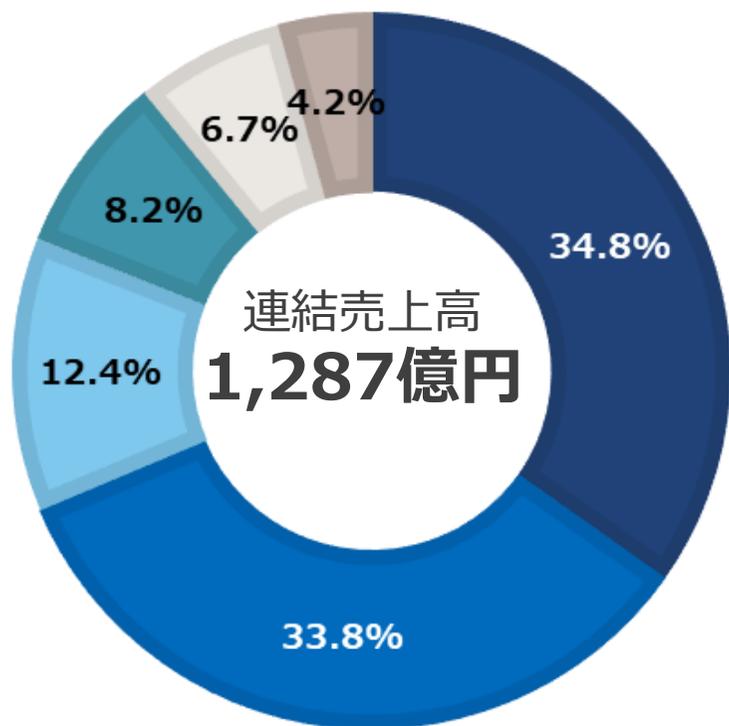
	売上高 ※1					営業利益				
	2023年度 上期実績	2024年度 上期期初予想 上期実績		増減率 前年同期比 予想比		2023年度 上期実績	2024年度 上期期初予想 上期実績		増減率 前年同期比 予想比	
チェーン	46,908	47,000	47,271	+ 0.8%	+ 0.6%	7,916	7,000	7,247	-8.5%	+ 3.5%
モーション コントロール	11,165	11,000	11,363	+ 1.8%	+ 3.3%	233	300	145	-37.7%	-51.4%
モビリティ	40,591	44,000	44,688	+ 10.1%	+ 1.6%	3,205	3,300	3,684	+ 14.9%	+ 11.6%
マテハン	30,042	34,000	33,005	+ 9.9%	-2.9%	▲ 1,637	100	▲ 106	—	—
その他 ※2	1,707	2,000	1,702	-0.3%	-14.9%	▲ 433	▲ 500	▲ 504	—	—
調整額	▲ 1,654	▲ 2,000	▲ 1,670	—	—	▲ 662	▲ 800	▲ 1,006	—	—
合計	128,760	136,000	136,360	+ 5.9%	+ 0.3%	8,622	9,400	9,459	+ 9.7%	+ 0.6%

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2 「その他」は報告セグメントではありません。

2024年3月期上期  
海外売上高比率：65.2%

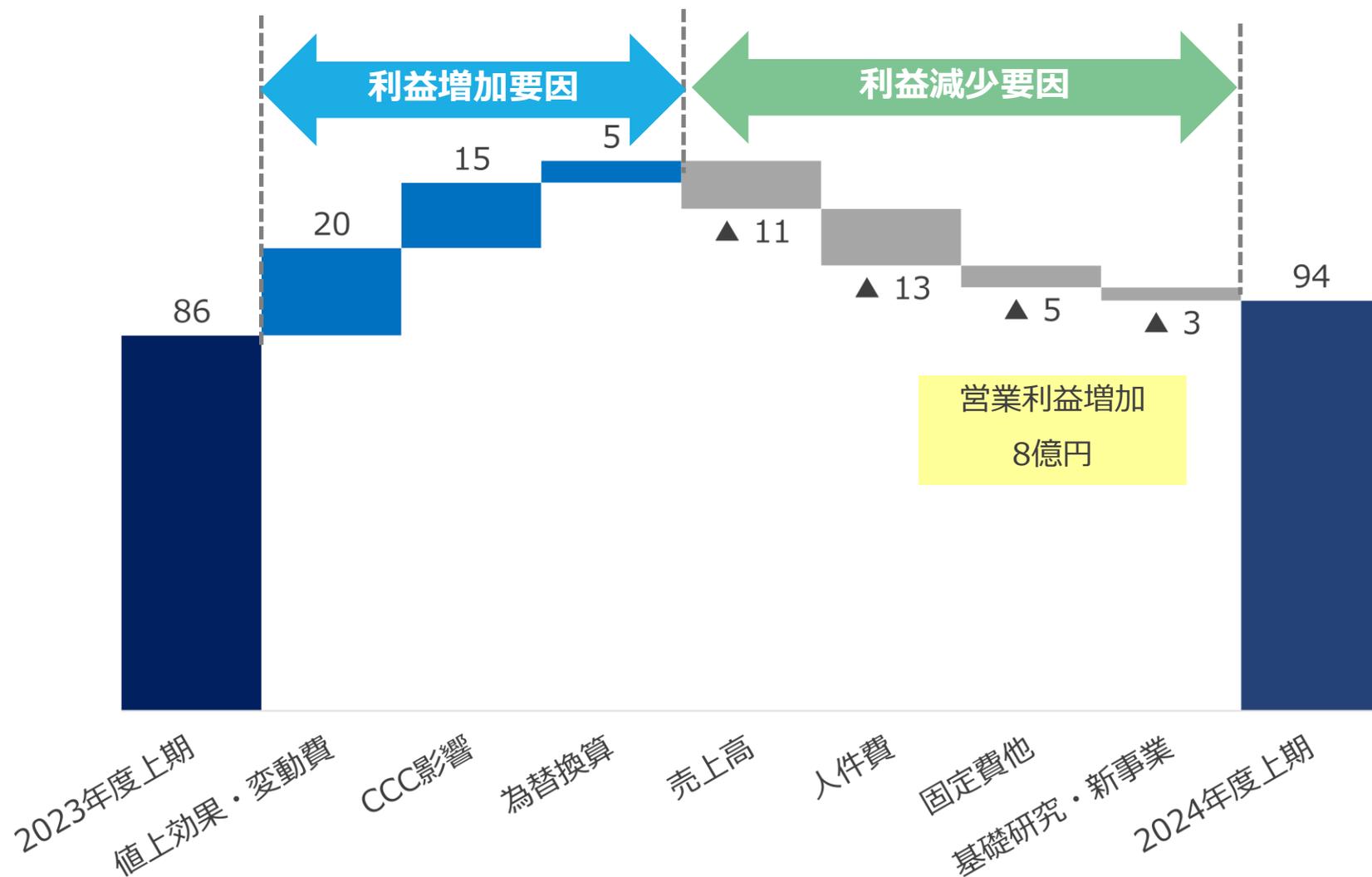
2025年3月期上期  
海外売上高比率：66.5%



■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ 環インド洋 ■ 中国 ■ 韓国・台湾

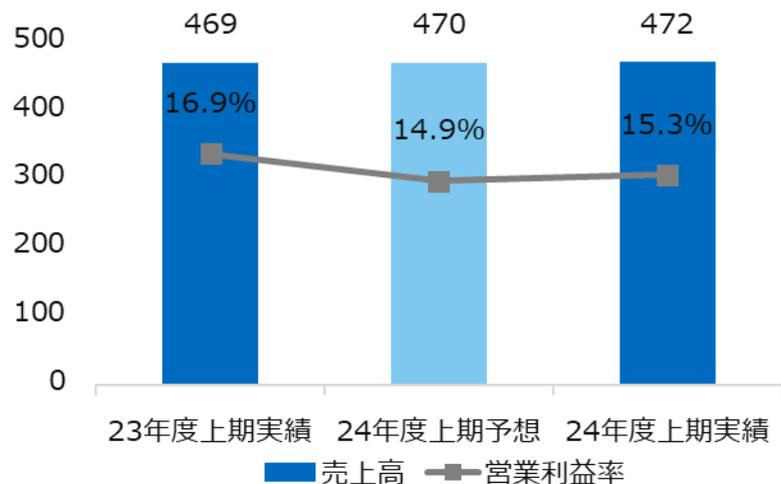
## 2024年3月期上期実績 vs 2025年3月期上期実績

(単位：億円)

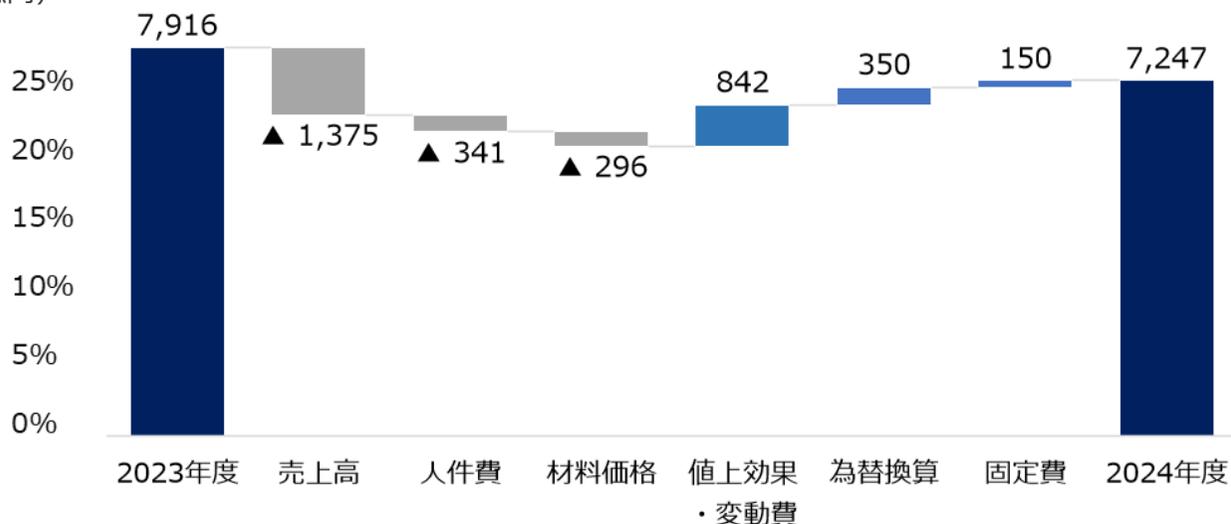


# 上期実績セグメント別概況 ― チェーン

## 売上高・営業利益率推移 (単位：億円)



## 営業利益 増減要因 (単位：百万円)



### 前年同期比

売上高  
↑ **+363百万円**  
 (+0.8%)

北米の需要一服、日本国内の需要伸び悩みはあったものの、円安による換算差の増加により増収。

セグメント利益  
↓ **▲669百万円**  
 (▲8.5%)

人件費や仕入コストの上昇、高収益の北米の需要一服等により減益。

### 期初予想比

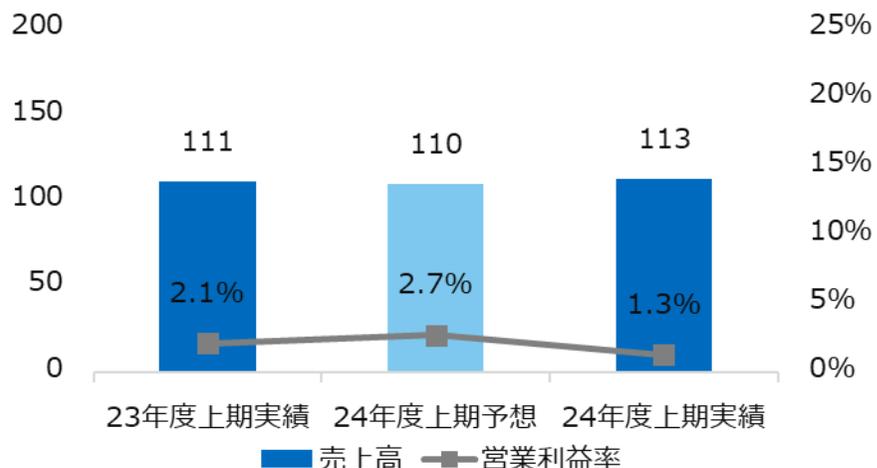
売上高  
↑ **+271百万円**  
 (+0.6%)

円安による為替換算の増加により増収。

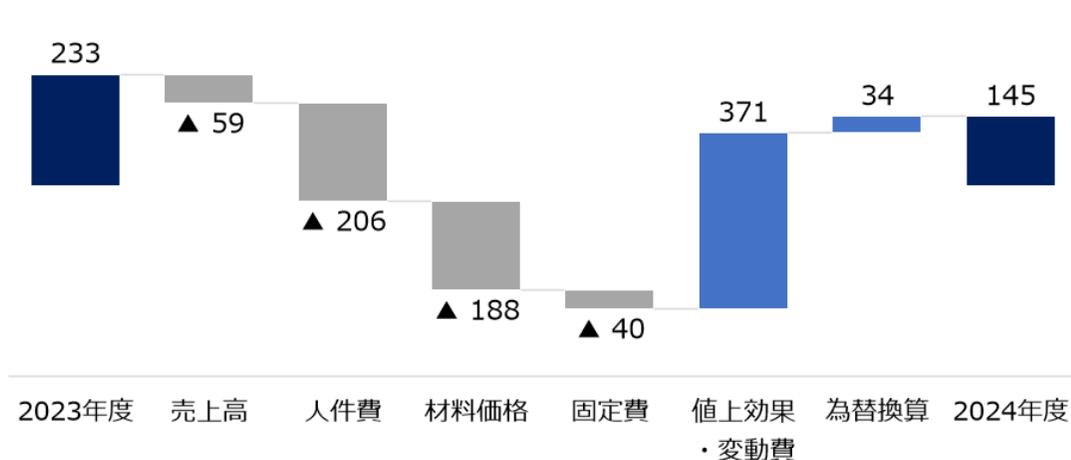
セグメント利益  
↑ **+247百万円**  
 (+3.5%)

北米での需要一服による収益性の低下はあるものの、コスト抑制により増益。

売上高・営業利益率推移 (単位：億円)



営業利益 増減要因 (単位：百万円)



## 前年同期比

売上高  
 ▲ **+197百万円**  
 (+1.8%)

北米ATR社(カップリング製造販売)が好調、日本も若干ながらも回復、円安効果もあり増収。

セグメント利益  
 ▲ **88百万円**  
 (▲37.7%)

日本国内における人件費等のコスト増、円安による仕入コスト上昇により減益。

## 期初予想比

売上高  
 ▲ **+363百万円**  
 (+3.3%)

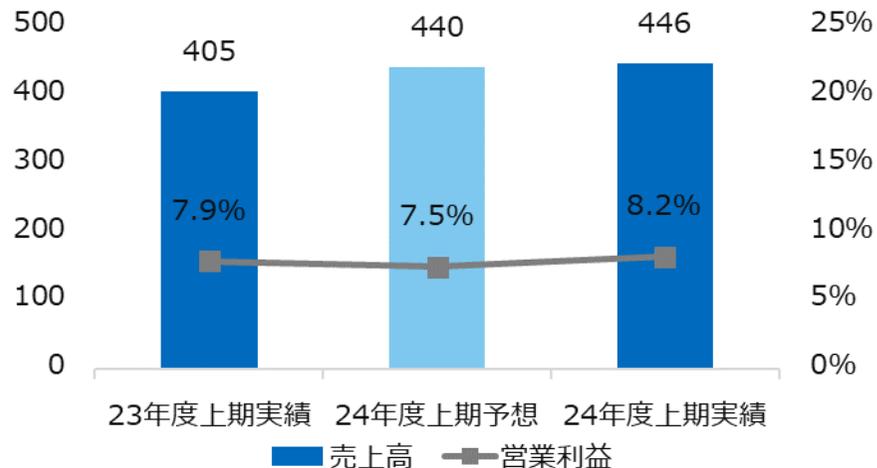
北米ATR社(カップリング製造販売)が好調、円安効果もあり増収。

セグメント利益  
 ▲ **154百万円**  
 (▲51.4%)

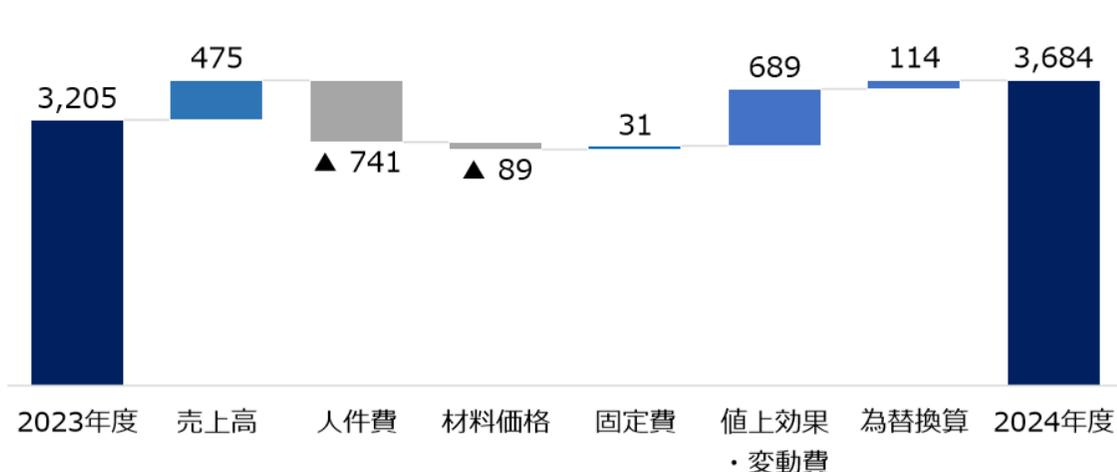
日本国内における人件費等のコスト増、円安による仕入コスト上昇により減益。

# 上期実績セグメント別概況 — モビリティ

## 売上高・営業利益率推移 (単位：億円)



## 営業利益 増減要因 (単位：百万円)



### 前年同期比

売上高  
**↑ +4,097百万円**  
 (+10.1%)

米州、欧州の販売好調、中国がわずかながらも回復したこと等により増収。

セグメント利益  
**↑ +479百万円**  
 (+14.9%)

人件費等のコスト上昇はあるものの、売上高の増加に伴い増益。

### 期初予想比

売上高  
**↑ +688百万円**  
 (+1.6%)

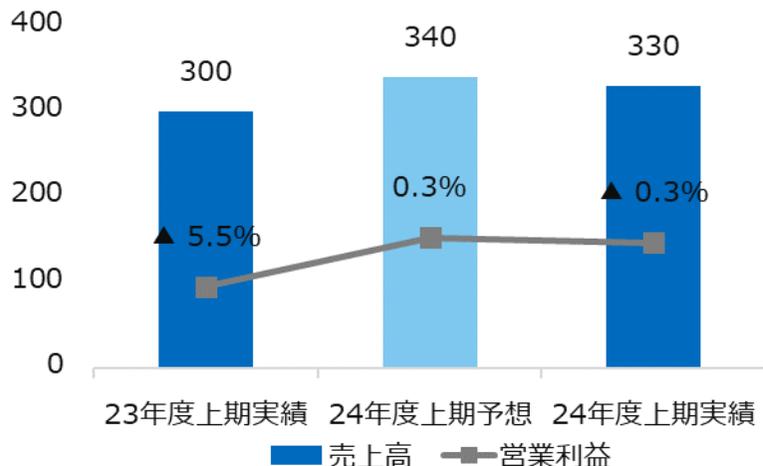
米州、欧州の販売好調により増収。

セグメント利益  
**↑ +384百万円**  
 (+11.6%)

売上高の増加に伴い増益。

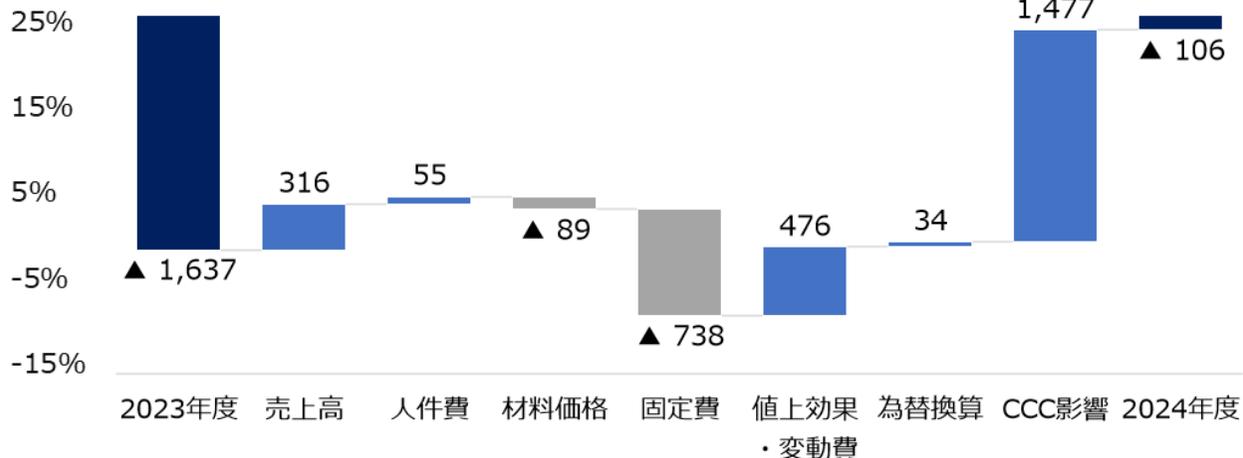
## 売上高・営業利益率推移

(単位：億円)



## 営業利益 増減要因

(単位：百万円)



## 前年同期比

売上高  
**▲+2,962百万円**  
 (+9.9%)

米国の自動車製造ライン向けシステム、日本国内における物流業界向けシステム販売増加により増収。

セグメント利益  
**▲+1,531百万円**  
 (—)

おもに日本国内における売上高不足による損失計上も、昨年度は工事損失等があったことから大幅に改善。

## 期初予想比

売上高  
**▲994百万円**  
 (▲2.9%)

日本国内における今期売上案件の獲得不足により減収。

セグメント利益  
**▲206百万円**  
 (—)

売上高の減少により減益。

↑ 前期比で売上高 2.7%、営業利益 ▲5.9% の増収・減益を想定。  
 当期純利益については、政策保有株式の売却も織り込み、7.8%の増益を計画。

(単位：百万円)

	2023年度 通期実績	上期実績	2024年度 下期予想	通期予想	前期比 増減率(%)
売上高	266,812	136,360	137,640	<b>274,000</b>	+ 2.7%
営業利益	21,262	9,459	10,541	<b>20,000</b>	▲5.9%
営業利益率	8.0%	6.9%	7.7%	<b>7.3%</b>	
経常利益	23,450	11,225	10,775	<b>22,000</b>	▲6.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,551	10,014	9,986	<b>20,000</b>	+ 7.8%
為替レート (USD)	144.59円	152.77円	145.00円	<b>148.89円</b>	
(EUR)	156.75円	166.06円	155.00円	<b>160.53円</b>	
(RMB)	19.82円	21.06円	20.00円	<b>20.74円</b>	

↑ 期初予想より下方修正も、全ての事業で増収を計画。

↓ マテハン事業は収益性改善を見込むものの、改善幅は縮小。各種コストの増大等により他セグメントも前期比で減益を想定。

(単位：百万円)

	売上高 ※1					営業利益				
	2023年度 通期実績	2024年度 予想	2024年度 期初予想	増減率		2023年度 通期実績	2024年度 予想	2024年度 期初予想	増減率	
				前期比	期初予想比				前期比	期初予想比
チェーン	94,151	<b>97,000</b>	95,000	+ 3.0%	+ 2.1%	16,396	<b>15,000</b>	15,500	▲ 8.5%	▲ 3.2%
モーション コントロール	22,731	<b>23,000</b>	24,000	+ 1.2%	▲ 4.2%	660	<b>400</b>	1,000	▲ 39.4%	▲ 60.0%
モビリティ	84,616	<b>88,000</b>	90,000	+ 4.0%	▲ 2.2%	7,815	<b>7,700</b>	8,200	▲ 1.5%	▲ 6.1%
マテハン	65,312	<b>66,000</b>	71,000	+ 1.1%	▲ 7.0%	▲ 1,165	<b>500</b>	1,200	—	▲ 58.3%
その他 ※2	3,404	<b>3,000</b>	4,000	▲ 11.9%	▲ 25.0%	▲ 944	<b>▲ 1,000</b>	▲ 1,000	—	—
調整額	▲ 3,402	<b>▲ 3,000</b>	▲ 4,000	—	—	▲ 1,499	<b>▲ 2,600</b>	▲ 1,900	—	—
合計	266,812	<b>274,000</b>	280,000	+ 2.7%	▲ 2.1%	21,262	<b>20,000</b>	23,000	▲ 5.9%	▲ 13.0%

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2 「その他」は報告セグメントではありません。

## 業績予想セグメント別概況 ― チェーン

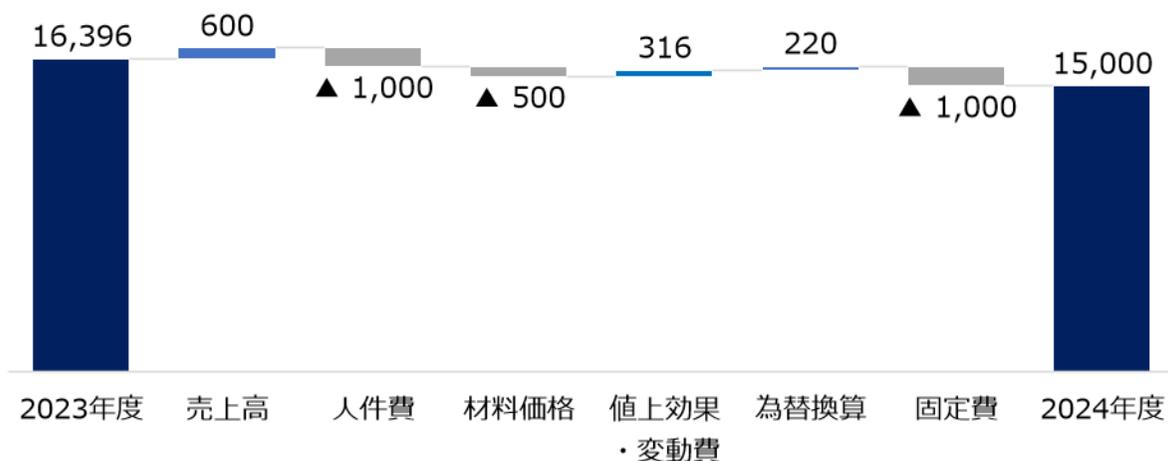
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益								
2023年度 通期実績	2024年度				増減率		2023年度 通期実績	2024年度				増減率	
	上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比		上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比
94,151	47,271	49,728	<b>97,000</b>	95,000	+ 3.0%	+ 2.1%	16,396	7,247	7,752	<b>15,000</b>	15,500	▲ 8.5%	▲ 3.2%

## 営業利益 増減要因

(単位：百万円)



## ✓ 売上高

海外需要の一時は見られるものの、北米での大統領選後の需要回復を見込み増収を想定。

## ✓ 営業利益

生産の自動化・省力化や内製化に取り組み原価改善を図るものの、人件費の上昇等により前期比8.5%の減益を想定。

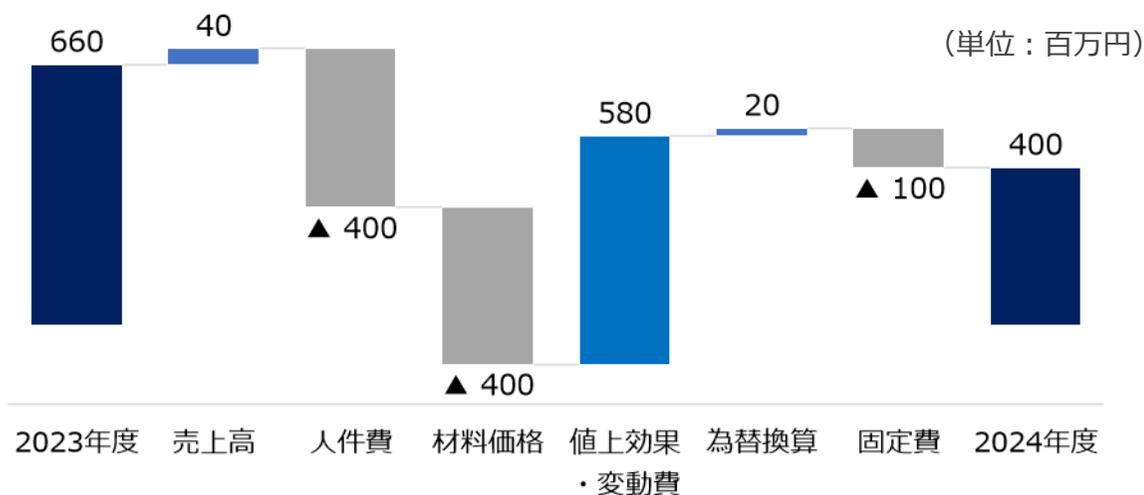
## 業績予想セグメント別概況 – モーションコントロール

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益								
2023年度 通期実績	2024年度				増減率		2023年度 通期実績	2024年度				増減率	
	上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比		上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比
22,731	11,363	11,636	<b>23,000</b>	24,000	+ 1.2%	▲ 4.2%	660	145	254	<b>400</b>	1,000	▲ 39.4%	▲ 60.0%

## 営業利益 増減要因



- ✓ 売上高  
半導体業界向けや工作機械業界向けの本格的な回復が期初の想定より遅延。売上高は前期比1.2%の増収にとどまると想定。
- ✓ 営業利益  
売上高の回復が期初の想定より弱く、人件費やモータなど仕入価格の上昇影響がカバーしきれず前期比39.4%の減益を想定。

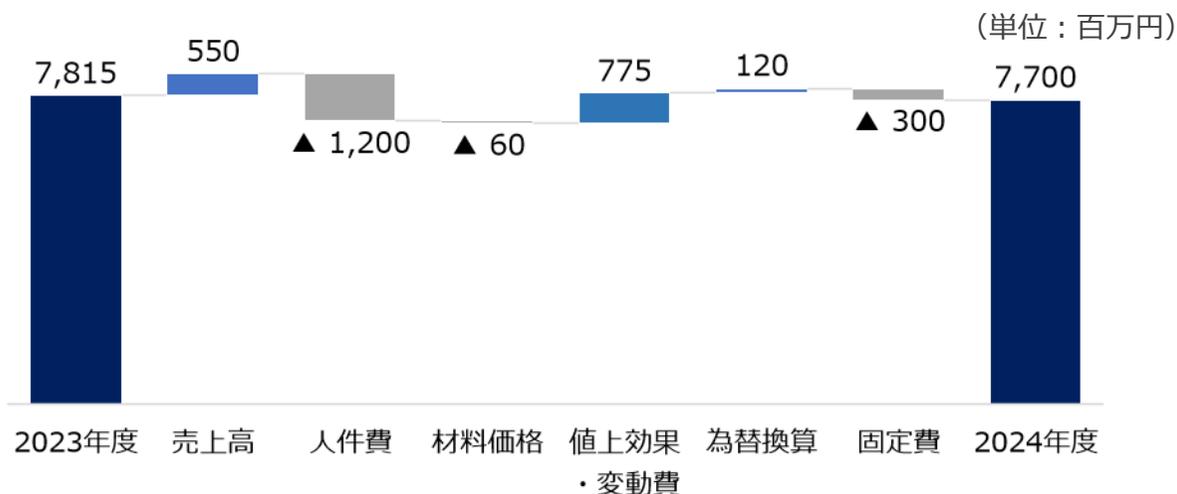
## 業績予想セグメント別概況 – モビリティ

※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益								
2023年度 通期実績	2024年度				増減率		2023年度 通期実績	2024年度				増減率	
	上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比		上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比
84,616	44,688	43,311	<b>88,000</b>	90,000	+ 4.0%	▲ 2.2%	7,815	3,684	4,015	<b>7,700</b>	8,200	▲ 1.5%	▲ 6.1%

## 営業利益 増減要因



- ✓ 売上高  
世界自動車生産の持ち直しにより、売上高は前期比4.0%の増収を想定。中国市場の回復が想定より遅延していることを受け、期初想定比で増収幅は縮小。
- ✓ 営業利益  
売上高の増加、製品値上げによる収支改善はあるものの、人件費等のコスト上昇により前期比1.5%の減益を想定。

## 業績予想セグメント別概況 – マテハン

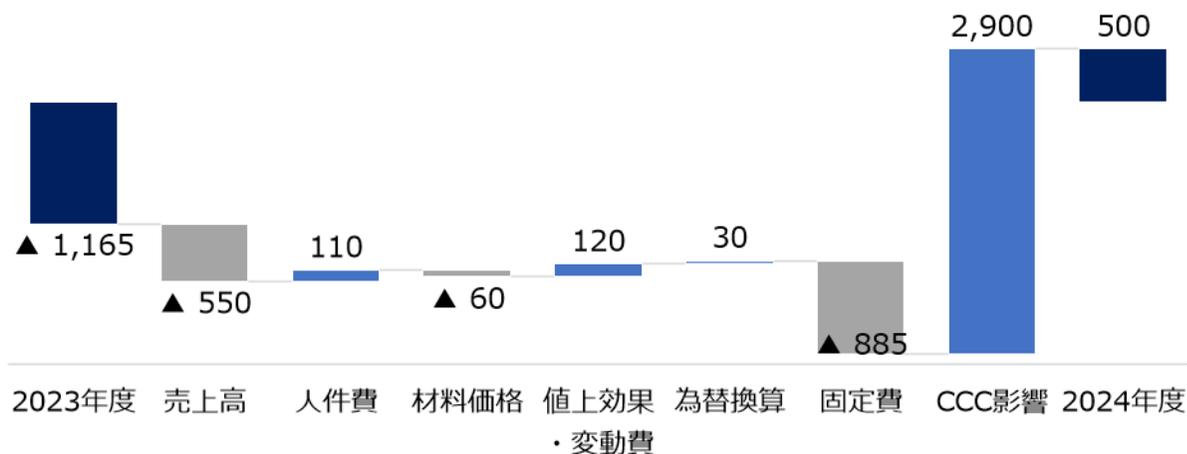
※1 売上高には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

売上高 ※1					営業利益								
2023年度 通期実績	2024年度				増減率		2023年度 通期実績	2024年度				増減率	
	上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比		上期実績	下期予想	通期予想	期初予想	前期比	期初予想比
65,312	33,005	32,994	<b>66,000</b>	71,000	+ 1.1%	▲ 7.0%	▲ 1,165	▲ 106	606	<b>500</b>	1,200	—	▲ 58.3%

## 営業利益 増減要因

(単位：百万円)



## ✓ 売上高

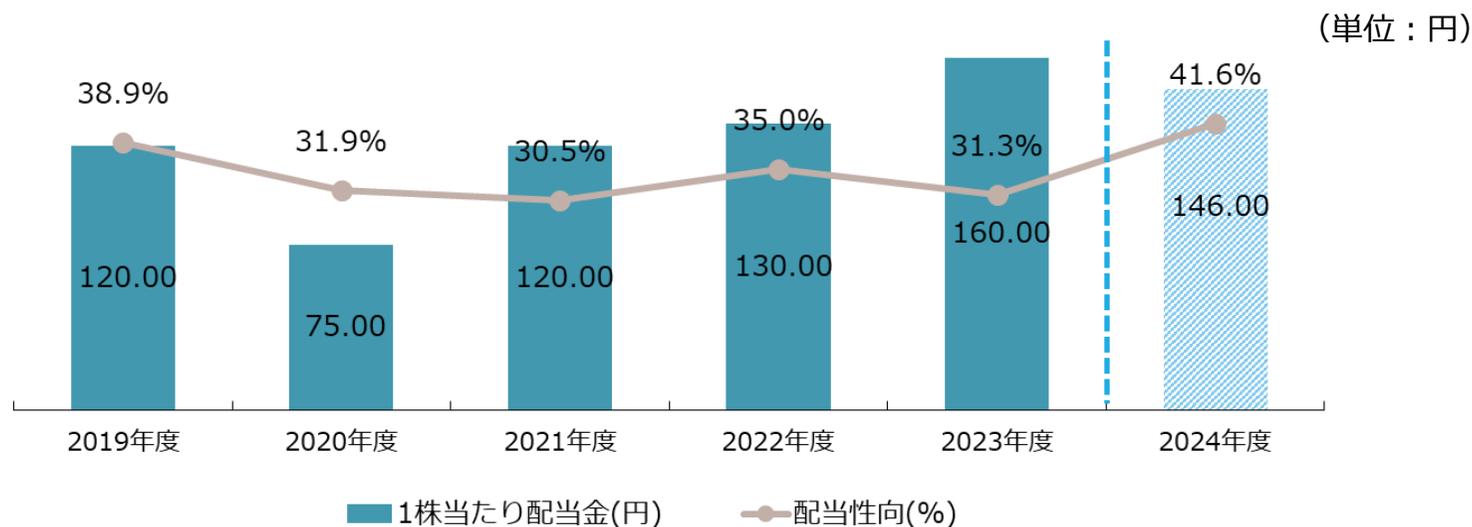
日本における粉粒体搬送設備の堅調持続、物流業界向け設備や自動車搬送設備の売上増を見込み、前期比1.1%の増収を想定。期初想定より日本国内の今期売上案件獲得が少なく、増収幅は縮小。

## ✓ 営業利益

日本国内での売上高の増加、cccの収支改善も、売上予想の下方修正により営業利益は5億円にとどまると想定。

## 適正な現預金水準を意識した戦略的な株主還元

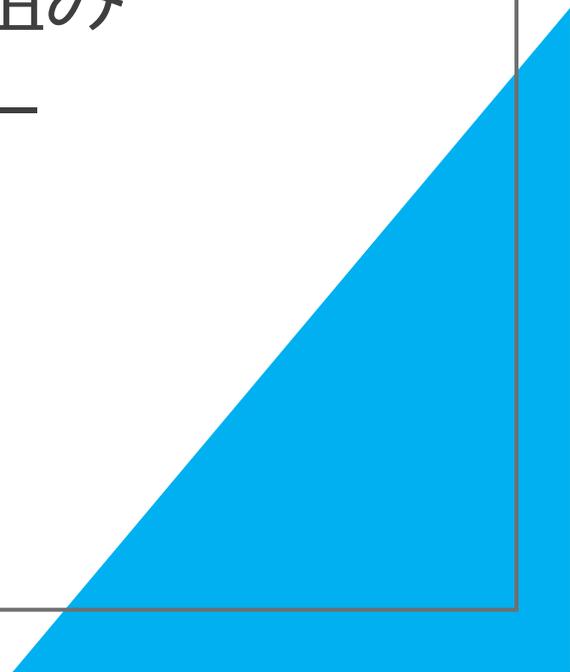
- ✓ 連結業績を反映した配当を基本方針とし、連結配当性向35%以上を基準とした利益配分をめざす。
- ✓ 自己株式の取得、政策保有株式の売却についても機動的に実施。



自己株式の取得					50億円 実施済 発行済株式の 3.2%	100億円 実施中 発行済株式の 5.0%
---------	--	--	--	--	-------------------------------	--------------------------------

※ 当社は、当社は2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2024年度の1株当たり期末配当金は当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。なお、株式分割を考慮しない場合の2024年度の1株当たり期末配当金は141円、1株当たり年間配当金は240円となります。

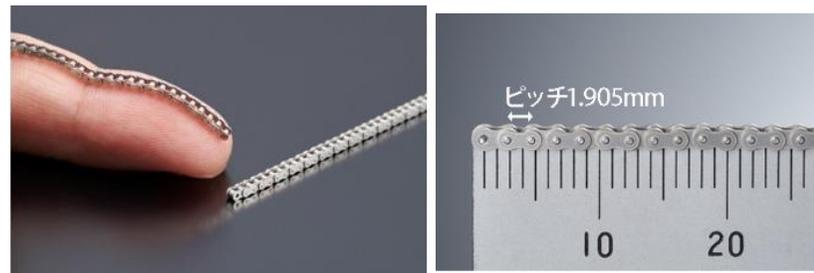
持続的な成長の実現に向けた取り組み  
— 取組み中案件の進捗について —



# 成長戦略の実行による持続的な利益成長 — チェーン

## 短期目標・取組み中案件の進捗

- ✓ No.1商品のさらなる強化
  - 超小形・世界最小ローラチェーン（ギネス認定）  
「**エプシロンチェーン™**」の市場投入
  - 一般産業にとどまらない、新市場の開拓



### 4つの特徴

- 01 ▶▶ 確実な動力伝達**  
スペースに制限がある機構・レイアウトにおいて確実な動力伝達を実現。
- 02 ▶▶ 長寿命**  
ローラを組み込んだことにより、極小サイズでありながらスムーズな噛み合いと長寿命を実現。
- 03 ▶▶ 高強度**  
最小引っ張り強さは0.36kNを実現。
- 04 ▶▶ 腐食環境に適応**  
ステンレス製で洗浄等、水のかかる環境でも使用可能。



ギネス認定式の様子

モノづくり日本会議/日刊工業新聞社主催

**超**モノづくり部品大賞

「機械・ロボット部品賞」受賞

## 短期目標・取組み中案件の進捗

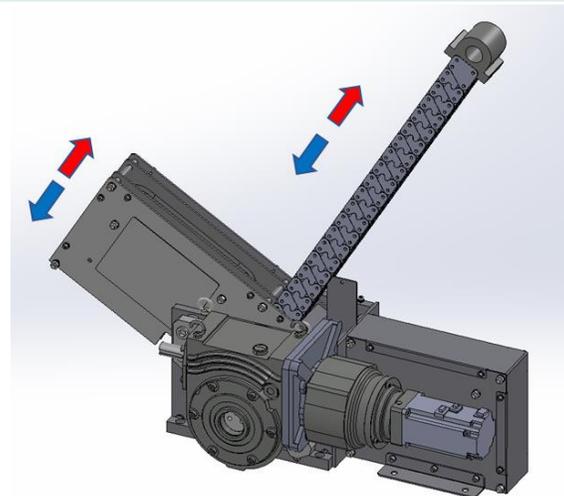
### ✓ 技術営業の強化、ジップ商品の市場訴求

#### — ZCA揺動タイプの特型展開

##### 特徴

揺動運転時に装置との干渉回避を目的とした特型構造

- ◇チェーン伸縮に合わせてケースが揺動
- ◇省スペース対応が可能（対油・空圧）
- ◇コンテナ開閉機構への試作納入評価開始



### ✓ 海外現地ロックダウン生産、アフターサービス事業の水平展開

#### — 米ATR社のフレックスカップリングの日本市場での販売開始

- ◇メンテナンス性と交換が容易な利点を生かし  
国内ギヤカップリングをターゲットに攻略活動

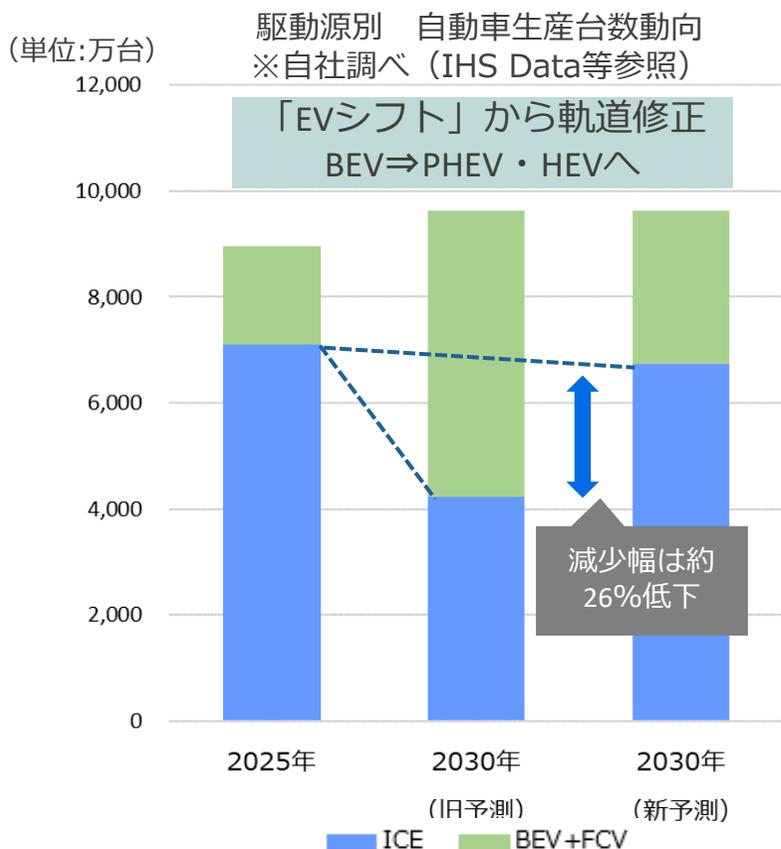


# 成長戦略の実行による持続的な利益成長 — モビリティ

## 短期目標・取組み中案件の進捗

### ✓ 内燃機関ビジネスの拡大と徹底した利益確保

— ICEの需要見直しによる製造再構築 国内外生産拠点の構築



14拠点 → 12拠点に集約



◎ 集約による稼働率向上 ⇒ 利益の最大化

◎ 新ビジネス生産スペースの創出

# 成長戦略の実行による持続的な利益成長 — マテハン

## 短期目標・取組み中案件の進捗

### ✓ 新製品・新技術の市場投入

— 世界最高レベルの高速・高精度「AI画像認識技術」を実用化

#### “AI（あい）てむ鑑定士”を発売

「商品の自動識別」を、AI画像認識により実現



### ✓ 差別化戦略の推進

— システムインテグレーションビジネス

#### “Nexa Warehouse-Optimizer”の提供開始

- ① 倉庫内で稼働するマテハン（システム・装置）やロボット、WMSなどのシステムデータを集約・分析
- ② 物流倉庫の現況をデジタル上に再現。データを可視化・分析



新しい物流を創る

## 当社が取り組む新事業開発の方向性



## 社会課題の解決

### 人にやさしい社会の実現

- ・ **ヒューマンアシスト事業**  
身体機能拡張  
リハビリ  
介護
- ・ **ライフサイエンス事業**  
再生医療

### 地球にやさしい社会の創造

- ・ **エネルギーインフラ事業**  
環境対応事業  
PCS  
(パワー・コントロール・システム)

### 安心・安全な生活基盤の構築

- ・ **アグリ事業**
- ・ **ニューモビリティ事業**  
↳ 超小型車両  
車載関連ユニット  
電動アシスト三輪自転車  
(LA SI QUE)  
産業用ドローン
- ・ **メンテナンス事業**  
(アフターサービス)  
↳ リモートメンテナンス

# 成長戦略の実行による持続的な利益成長 — 新事業

取組み中案件の進捗

## ✓ アグリ事業の拡大

— 株式会社ツバキベジムーブの設立、株式会社木田屋商店のアグリ事業を買収

### 木田屋商店アグリ事業

業界トップクラスの  
栽培ノウハウと販売実績



### 当社アグリビジネス

自動化システム技術  
開発機能



アグリ事業拡大  
持続可能な農業の実現へ貢献

売上計画

2027年度 → 25億円  
2030年度 → 50億円

— アグリ事業の事業概要

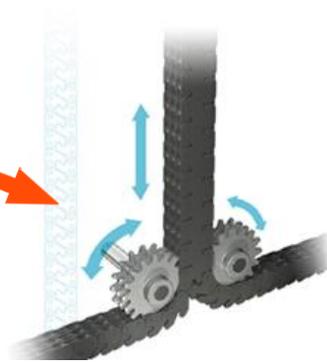
- 1 植物工場向け自動化システムの開発・製造販売事業
- 2 植物工場事業・農作物販売  
(自社工場および提携植物工場)
- 3 植物工場事業者へのコンサルティング事業



福井美浜工場  
(2025年7月竣工予定)

## 取組み中案件の進捗

### ✓ 車いす専用段差解消機「チェーンウェイター」販売開始



チェーンウェイターユニットの  
駆動部に「ジップチェーン」を搭載。

### — チェーンウェイターの特徴

自立型チェーン駆動。  
独立耐震構造フレームにより、  
一般的なワイヤーロープを用いた  
昇降機と異なり、建物の追加補強不要。

 <p>300kg OK</p>	 <p>一人でも OK</p>	 <p>ロングライフ</p>	 <p>停電時も安心* <small>*非常用バッテリー内蔵</small></p>
積載荷重300kg 大型車いす対応	自分で操作 安心の乗降サポート	壊れにくい ロングライフ設計	停電時も動作 信頼の安全システム

2025年 日本国際博覧会（大阪・関西万博）

「大阪ヘルスケアパビリオン」への協賛・出展

当社  
出展コンセプト

**MOTION CREATES EMOTION.**

「動かす」技術で、カラダもココロも「動かす」

Robotics Wear **T's Exoskeleton**

“ロボティクスウェア（着るロボット）”のセミオーダーメイドサービス

ブーステーマ



2050年、ロボットは

「ロボティクスウェア＝着るロボット」へ発展。  
身体能力の補助、増強を実現する時代へ。



- ① 空を「飛ぶ」
  - ② 重量物を「持ち上げる」
- 身体能力の拡張体験の場を提供



当社グループは  
**パートナーシップ構築宣言**に基づき、取引先の  
皆さまや価値創造を図る事業者の皆様との連携、  
共栄共存を進めるとともに、  
**マルチステークホルダー方針**に基づき、  
ステークホルダーとの価値協創や生産性向上に  
取り組みます。生み出された収益・成果については、  
マルチステークホルダーへの適切な分配を行って  
まいります。

本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。